

# 虐待から子どもたちを守る

## 【女児死亡事件の概要】

- ◎平成29年12月21日
  - ・伊奈町在住の女児（当時：4歳）が死亡する事件が発生。
  - ・全身に傷・あざがあった。
- ◎令和2年3月6日
  - ・保護者が保護責任者遺棄致死容疑で逮捕。

## 【伊奈町のかかわり】

- ◎H28年7月21日
  - ・通報を受け職員が現場に臨場。「トイレトレーニングに失敗。謝らないので外に出した」と確認。傷、あざがあったため事情を聞き、しつけ等について、注意・助言を行った。
- ◎H28年7月22日
  - ・母親が来庁（児童手当支給の手続き）の際、詳しく話を聞き、改めて注意・助言を行った。
- ◎H28年8月10日
  - ・家庭訪問をし、子どもの状況確認を行った。助言を行い、子育て支援センターの行事等の資料を提供した。子どもの表情も確認し、母子関係は良好と判断した。（傷、あざは無し）
  - ※注意・助言に対し、母親は素直に話を受け入れ、反省していた。子どももなついており、関係も良好だった。総合的に考え、重篤な状況ではないと判断し、経過観察を終了とした。
- ◎H29年2月7日
  - ・3歳児健診の受診。あざ等は確認されなかった。予防接種も概ね受けていた。

3月9日に開かれた「全員協議会」で2時間を超える質疑、要望を行いました。1部を抜粋して報告します。

### 虐待を防ぎ、子どもたちを守るために行った対応は

- 議員** 児童相談所や要保護児童対策協議会（以後、「要対協」）に話しを上げたのか。
- 町** 虐待と決めることができず、経過観察とした。母親の態度、傷の回復状況などから不要と判断した。
- 議員** 経過観察は、どこまで踏み込んで行ったのか。
- 町** 親との信頼関係が重要。疑ってかかるのは得策ではなく、配慮しつつの確認となる。状況把握が難しい。
- 議員** 児童相談所等への判断・報告基準は。
- 町** 虐待の判断の際、「母親の言葉を信じてしまった」という部分では判断が甘かったのかもしれない。親の言葉の真偽の見極めは難しいが、今後は、より厳しい目で見ていく必要があると考えている。

- 議員** 子育てに対する相談を受けたり、反対に町から積極的に精神的なフォロー等は行わなかったのか。
- 町** 子育て支援センターでの息抜きや悩みごとの相談などを促した。母親は素直に受け答えをしていた。

### 子どもたちを守るために必要なこと

- 議員** どのように守っていこうと考えているのか。
- 町** 家庭内で起こっているため難しいが、多くの目に見られていることを意識させることが重要と考える。保育所等に通っていれば、多くの目が届くが、乳幼児は難しい。近所、地域の方々の協力も必要だと考える。

### 今後、悲しい事件を起こさないために

- 議員** 虐待対応に、事務職が対応していたとのこと。今は保育士経験者が対応しているのか。児童福祉司より保育士経験者が効果的。人員体制を確保してほしい。
- 町** 現在は児童福祉司の資格を有する職員を中心に対応。今後は人員確保や職員のスキルアップに引き続き取り組み、子育て支援課を中心に虐待対応にあたっていく。
- 議員** わずか20日余りで見守りを終了したことが残念。マニュアル通りなのか。対応は甘くなかったか。
- 町** マニュアルはあるが細部について書き切れていなかった。マニュアル通り進めていた案件だが、その中に甘い判断があったと認識している。

### 町の決意

この母親なら大丈夫だと思った。もう少し疑う気持ちが必要だった。しかし、全てを役場職員だけでは無理。児童相談所、警察、その他関連機関、地域と共に実態をしっかりと把握する必要がある。町をあげて二度と起きないように取り組む。

### 迅速で正確な情報提供を

報道されるまで議会に対し報告がなかった。今後、迅速な情報提供を要望する。その上で、議会としてどのように対応すべきか、検討していきたいと考える。これまでも児童虐待に関しては、複数の議員が一般質問を通して問題視してきた。力が及ばず残念だ。

※その他議会会期中、新型コロナウイルスに関しても様々な質疑が行われました。